

OECD 非公式教育大臣会合日程案

高等教育における成果の評価

平成 20 年 1 月 11-12 日 於: 東京国際交流館、ホテル日航東京

1 月 11 日(金)

16:30-18:30 セッション 1: 社会が高等教育における成果として期待するもの
【講演者】池田守男 資生堂相談役

19:00- ワーキング・ディナー

1 月 12 日(土)

9:00-10:30 セッション 2: 高等教育の成果の評価に関する各国の取組
【講演者】有馬朗人 元文部大臣
高等教育の成果として期待することとその評価
評価結果の活用状況と高等教育制度に与える影響

10:30-11:00 休憩

11:00-12:30 セッション 3: 評価の政策への活用と実施
【講演者】小宮山宏 東京大学総長
大学評価の国内及び国際比較
大学ランキングの功罪

12:30-14:30 ワーキング・ランチ(立食)
【講演者】マーシャル・スミス ヒューレット財団プログラムディレクター

14:30-16:00 セッション 4: 高等教育の学習成果の評価
【講演者】マーシャル・スミス ヒューレット財団プログラムディレクター
OECD での取組報告
学習成果の評価方法
学習成果の評価への期待と挑戦

16:00-16:30 休憩

16:30-17:30 結論

18:00-18:40 記者会見

高等教育における成果の評価（仮訳）

セッション 1: 社会が高等教育における成果として期待するもの

過去数十年間、高等教育は拡大するとともに、多様なものとなった。知識社会にあって高等教育は政府及び個人にとっての戦略的な投資である。したがって社会は大きな期待を高等教育に寄せている。

高等教育の成果¹は複数あり、個々の高等教育機関は異なる。卒業生・修了生は専攻分野における高度な技能を身につけているとともに、多種多様な職につけるよう、幅広い教育を受けていることを期待されている。研究やイノベーションは社会経済のニーズに応えるとともに、国際水準であることも期待されている。また、高等教育が一握りの若い人のものではなく、多くの人が経済活動に従事する上で不可欠なものとなっている現在、高等教育機関はその位置する地域の経済、社会、文化の発展に寄与するものであることが期待されている。

さらに、政府その他関係者は、基礎研究、技術移転、文化の保存と発信、若い人やそう若くない人の学術分野における教育、広い社会との関わりといった成果が、効率的に、公平性をもって、高い水準で生み出されることを求めている。したがって、近年ますます、政府は成果の質を測り、向上させるための手だてとして、評価をみている。

この第一セッションでは、変わりゆく高等教育制度や機関に対する期待に焦点をあてる。

政府や高等教育機関は、高等教育に対する社会の多様な期待を明確に打ち出しているか、

産業界や外の世界にそれは理解されているか、

政府の高等教育政策に多様な期待は十分に反映されているか、

セッション 2: 高等教育の成果の評価に関する各国の取組

過去 20 年間の間にほぼ全ての OECD 加盟国において質の保証に関する取組は強化された。高等教育機関による自己評価とピアレビューを組み合わせることが多い。大半の国ではなんらかの定量的指標を取り入れている。ただし、質とは何を意味すると理解されているのか、そして評価が内部評価というよりも外部からのものとなっているかについては、国によって大きく異なる。

¹ここで言う「成果」とは高等教育によってもたらされる変化、個人や社会に与える影響を指している。

(インプットや過程ではなく)成果の評価²は質保証やアクレディテーション(適格認定)よりも狭い概念であり、政策形成や高等教育機関による質の改善、学生やその家族、雇用者にとっても重要な情報を提供するものである。

成果の評価には課題もある。イノベーションや学習といった概念は特に評価が難しい。単純な方法を用いると、高等教育機関側からのインセンティブに悪影響を及ぼし、中にはその仕組みをうまく利用する高等教育機関が出てくるおそれがある。よりきめ細やかな方法をとれば、手続きが過度に煩雑になり、反発を招くおそれがある。

このセッションでは、各国がどのように、そして、なぜ高等教育の成果を評価する取組を行っているのかに焦点をあてる。

研究、学習、経済社会の発展における高等教育の成果の質を評価するため、各国でどのような取組が行われているか。

それらの取組はどの程度の成果を収めているか。

評価結果は透明性を高めるために公表されているのか、それとも特定の機関にのみ向上を促すために提供されているのか。

セッション 3: 評価の政策実施への活用

評価だけの評価は無駄であり、フォローアップが必要である。ただ、フォローアップには、情報提供を通じて改善を促すという目的と、政府や社会に対するアカウンタビリティ(説明責任)のための手段という目的がある。

評価は高等教育機関のランキングに連動しうる。ベルリン原則³はランキングの実施・作成に関する枠組を提供しているが、ランキングを解釈する側にはあまり影響がない。ランキングの数は増えており、高等教育機関や学生、雇用者に及ぼす影響も広がっているが、その基礎となっている情報がよいものでなければ、ランキング自体もよいものとはならない。最近では、国際大学ランキングも出現しており、広い関心を集めている。

高等教育に対する公費負担と私費負担の割合は国によって異なるが、公費による負担は大きなものとなっている。高等教育機関は、社会や関係者に対してその要請に応えていることを説明する責任がある。ただし、財政支援を通じた、業績に応じた報償や措置に、評価結果を直接あるいは間接的に活用する取組はほとんど行われていない。

このセッションでは評価の活用に焦点をあてる。

² 「評価」とは、ある制度や要素がどの程度その目標や目的に適合しているかを実証に基づいて判断する過程を指す。

³ ユネスコ・ヨーロッパ高等教育センターと高等教育政策研究所の招集による国際ランキング専門家グループにより策定

ランキングに対する社会の理解を深め、高等教育の様々な目的を反映したものとさせるためにはどうしたらよいか。

ランキングの影響はどのようなものか。

直接あるいは間接的に業績を財政支援に反映させている国の状況とはどのようなものか。

成果の評価が高等教育の有効性を向上させることを実証するものはあるか。

セッション 4: 高等教育における学習成果の評価の可能性について

学習成果の評価の重要性については認識されているが、確固とした取組が行われている国はほとんどなく、このような取組が行われている国においても制度的に行われているものではない。

仮に高等教育機関の国際的な比較が避けられないものであるとすれば、その基礎となる情報を改善することは可能と考えられる。学習成果の評価がそうした改善の一環になりうる。その中で、15歳を対象としたPISAの知見や成人を対象としたPIAACの計画は有望である。OECDが助言を求めた国際的な専門家によると、学習成果の評価に関する国際的な検討はアカウンタビリティの向上と政府や高等教育機関、質保証機関による学習成果の評価方法の改善に資するものであるという意見であった。

標準化された国際的な試験方法は学習成果の一部の側面しか評価できず、フィージビリティ・スタディは知識社会における雇用において必要とされる汎用的技能、及び、ある専攻において取得される特定の技能の測定が現実的に可能かを追求することになる。歴史的・文化的経緯や国ごとに異なるカリキュラム、課程年限や進学率の差に留意する必要がある。学生や高等教育機関が参加する動機付けも必要である。

学習成果の評価にあたっては、各国で、あるいは国際的にどのような取組が行われているか。主な課題は何か。

OECDの学習成果の評価に関する国際的な取組提案は高等教育を前進させるものとなるか。

OECDは高等教育における成果の評価にあたって各国をどのような他の形で支援することができるか。

**Participants list for Informal Meeting of OECD Education Ministers on
Evaluating the Outcomes of Higher Education/Liste des participants pour
Réunion informelle des Ministres de l'éducation de l'OCDE sur l'évaluation
des résultats de l'enseignement supérieur**

11/1/2008 - 12/1/2008

Mr. Colin WALTERS	Australia/Australie <i>Group Manager Higher Education Group Department of Education, Employment and Workplace Relations</i>
Mr. Friedrich FAULHAMMER	Austria/Autriche <i>Director-General, Higher Education Federal Ministry for Science and Research</i>
Mr. Dirk VAN DAMME	Belgium/Belgique <i>Chief of Cabinet Ministry of the Flemish Community</i>
Dr. Diane (Hon.) MCGIFFORD	Canada/Canada <i>Minister of Advanced Education and Literacy Advanced Education and Literacy Government of Manitoba</i>
Mr. Malcolm BROWN	<i>Senior Assistant Deputy Minister, Strategic Policy and Research, Human Resources and Social Development Canada (HRSDC).</i>
Ms. Elaine PHILLIPS	<i>Acting Deputy Minister, Advanced Education and Literacy</i>
Ms. Yanina AVDYEYEVA	<i>Analyst, International Programs</i>
Ms. HELEN SMILEY	<i>Director, Learning Policy Human Resources and Social Development</i>
Ms. Denise GAREAU	<i>Senior Policy Analyst Human Resources and Social Development Canada</i>
Ms. Jaana PALOJÄRVI	Finland/Finlande <i>Director for International Relations</i>

France/France

M. Daniel VITRY

*Directeur, D.E.P.P.
Ministère de l'Education nationale, de
l'enseignement supérieur et de la Recherche*

Germany/Allemagne

Prof. Dr. Peter FRANKENBERG

*Minister for Science, Research and the Arts, State of
Baden-Wuerttemberg, Germany*

Dr. Harold HAGMANN

*Director General for Development of Higher
Education, Law, Studies and Student Social Service,
Ministry of Science, Research and the Arts, State of
Baden-Wuerttemberg*

Iceland/Islande

Mr. Gudmundur ARNASON

*Permanent Secretary
Ministry of Education, Science and Culture*

Japan/Japon

Mr. Kisaburo TOKAI

*Minister
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and
Technology*

Mr. Kiyoshi SHIMIZU

*Director-General, Higher Education Bureau
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and
Technology*

Mr. Isao KISO

*Director, International Affairs Division, Minister's
Secretariat
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and
Technology (MEXT)*

Mr. Sadayuki TSUCHIYA

*Deputy Director-General, Higher Education
Bureau
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and
Technology*

Mr. Kimito KUBO

*Deputy Director-General, Higher Education
Bureau
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and
Technology*

Mr. Keisuke YOSHIO

*Director of International Science & Technology
Affairs
Japan
International Affairs Division, Ministry of
Education, Culture, Sports, Science & Technology*

Mr. Makoto FUJIWARA *Director, Higher Education Policy Planning
Division, Higher Education Bureau
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and
Technology*

Korea/Corée

Mr. Namsoo SEO *Vice Minister, Ministry of Education & HRD*

Ms. Pilnam YI *Deputy Director
International Education Co-operation Division
University Policy Division, Ministry of Education &
HRD*

Mr. Sang-Duk CHOI *Director, Office of Higher and Lifelong Education
Office of Higher and Adult Education
Korean Education Development Institute*

Mexico/Mexique

Mr. Rodolfo TUIRAN GUTIERREZ *Undersecretary of Higher Education*

Dr. Eugenio CETINA VALDILLO *Director General of Higher Education
Secretaria de Educacion Superior*

Netherlands/Pays-Bas

Mr. Wim VAN NIEKERK *Senior Policy Manager
Higher Education and Research Act
Ministry of Education, Culture and Science*

Norway/Norvège

Ms. Toril JOHANSSON *Director General
Department of Higher Education
Ministry of Education & Research*

Poland/Pologne

Ms. Maria Elzbieta ORLOWSKA *Secretary of State
Ministry of Science and Higher Education*

Mr. Piotr GMAJ *Advisor / Ministry of Science and Higher Education*

Spain/Espagne

Mr. Miguel Angel QUINTANILLA FISAC *Secrétaire d'Etat aux Universités et à la Recherche
Ministère de l'Education et de la Science*

Mr. Javier VIDAL GARCIA *Director of Universities
Ministry of Education*

Sweden/Suède

Mr. Lars LEIJONBORG *Minister for Higher Education and Research*

Ms. Ann-Caroline NORDSTRÖM *Director General
Division for Higher Education
Ministry of Education and Research*

Ms. Bodil BERGMAN *Deputy Director
International Secretariat
Ministry of Education and Research*

Ms. Eva BYBERG *Press Secretary*

Turkey/Turquie

Prof. Sener OKTIK *Chairman
National Committee of Turkish Higher Education
Qualifications Framework (YYK)*

United Kingdom/Royaume-Uni

Mrs. Mary GURTEEN *Head of International Students Team
International Students Team,
Department for Education and Skills*

EC/CE

Ms. Barbara NOLAN *Head of unit*

China/Chine

Prof. Zhang LI *Director General of National Centre for Education
Development Research
Ministry of Education of the People's Republic of
China*

Mr. Ma LUTING *Professor, Director of Higher Education Research
Division of National Center for Education
Development Research
Ministry of Education*

Mr. Dali CHEN *Senior Program Official*

OECD/OCDE

Mr. Aart DE GEUS	<i>Deputy Secretary-General SGE OECD</i>
Ms. Barbara ISCHINGER	<i>Director EDU OECD</i>
Mr. Andreas SCHLEICHER	<i>Head of Division EDU/IA OECD</i>
Mr. Richard YELLAND	<i>Head of Division EDU/EMI OECD</i>
	Other/Autre
Dr. Akito ARIMA	<i>Former Minister of Education, Japan</i>
Morio IKEDA	<i>Senior Advisor Shiseido Co.Ltd.</i>
Dr. Hiroshi KOMIYAMA	<i>President University of Tokyo</i>
Dr. Marshall SMITH	<i>Program Director Education Program The William and Flora Hewlett Foundation</i>
Prof. Marijk VAN DER WENDE	<i>IMHE chair</i>
Mr. Torben Kornbech RASMUSSEN	<i>Director and Chair of the Education Policy Committee International Relations Division Ministry of Education</i>